

松江工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	ソフトウェア工学 2	
科目基礎情報							
科目番号	0044			科目区分	専門 / 必履修		
授業形態	授業・演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	情報工学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	【教科書】 高橋直久・丸山勝久：情報工学レクチャーシリーズ・ソフトウェア工学（森北出版）　【参考書】 小泉寿男：ソフトウェア開発（オーム社）						
担当教員	廣瀬 誠						
到達目標							
(1) ソフトウェア開発におけるユーザインターフェース設計の基本的な考え方を理解した。 (2) ソフトウェア開発におけるモジュール分割の基本的な考え方を理解した。 (3) ソフトウェア開発におけるテスト技法の基本的な考え方を理解した。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	ソフトウェア開発におけるユーザインターフェース設計の基本的な考え方を完全に理解した。			ソフトウェア開発におけるユーザインターフェース設計の基本的な考え方を理解した。		ソフトウェア開発におけるユーザインターフェース設計の基本的な考え方を理解していない。	
評価項目2	ソフトウェア開発におけるテスト技法ソフトウェア開発におけるモジュール分割の基本的な考え方を完全に理解した。の基本的な考え方を完全に理解した。			ソフトウェア開発におけるモジュール分割の基本的な考え方を理解した。		ソフトウェア開発におけるモジュール分割の基本的な考え方を理解していない。	
評価項目3	ソフトウェア開発におけるテスト技法の基本的な考え方を完全に理解した。			ソフトウェア開発におけるテスト技法の基本的な考え方を理解した。		ソフトウェア開発におけるテスト技法の基本的な考え方を理解していない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	ソフトウェアにおけるコーディング技術は、どのようなプログラミング言語による実装においても基本は同じである。構造化手法においては関数をベースとしているがオブジェクト指向におけるメソッドへ活かされており、関数ベースにおけるモジュール分割の基本的な考え方を理解することは重要である。また、実装後のソフトウェアテストは品質を担保するために重要な工程である。金銭的、時間的、人的なリソースが限られた中で、ソフトウェアテストを効率的にするのが最も重要である。本科目では、まず、ユーザインターフェース設計を学び、次に効果的なモジュール分割方法、複雑度から見たコーディング方法を学び、コードのリファクタリングの基本的な考え方を理解する。また、ソフトウェア技法とそれらを適切に実践するための基本的な考え方を理解する。						
授業の進め方・方法	到達目標(1)～(3)の到達度を、 ・中間試験　20% ・期末試験　30% ・不定期授業課題（実習を含む）　50% の割合で評価し、これらの合計を本科目の総合評価とする。総合評価が100点満点中60点以上であることを合格の条件とする。						
注意点	本科目は原則再試験を行わない（出席率が2/3以上ある場合考慮する）。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ユーザインタフェース設計① ユーザインタフェース設計とは？対話方式		評価項目1を理解		
		2週	ユーザインタフェース設計② 画面設計		評価項目1を理解		
		3週	モジュール設計とプログラミング① モジュール分割とは？		評価項目2を理解		
		4週	モジュール設計とプログラミング② モジュール分割の実践		評価項目2を理解		
		5週	モジュール設計とプログラミング③ ジャクソン法、ワーニエ法		評価項目2を理解		
		6週	モジュール設計とプログラミング④ プログラムの複雑度とリファクタリング		評価項目2を理解		
		7週	中間試験 第1週～第6週の理解度を確認する		評価項目1,2の理解度を測る		
		8週	ソフトウェアテスト① ソフトウェアテストとは？		評価項目3を理解		
	4thQ	9週	ソフトウェアテスト② ソフトウェアテストの基本語句		評価項目3を理解		
		10週	ソフトウェアテスト③ 同値分割法と境界値分析		評価項目3を理解		
		11週	ソフトウェアテスト④ デシジョンテーブル		評価項目3を理解		
		12週	ソフトウェアテスト⑤ 状態遷移テスト		評価項目3を理解		
		13週	ソフトウェアテスト⑥ 組合せテスト		評価項目3を理解		

		14週	ソフトウェアテスト⑦および運用と保守 実践的なソフトテスト、運用と保守	評価項目3を理解
		15週	期末試験 主に第8週～第14週の理解度を確認する（範囲としては第1週～第6週も含む）	評価項目1,2,3の理解度を測る
		16週	まとめ 期末試験の返却、レビュー。	評価項目1,2,3を理解

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	中間試験	期末試験	課題・演習	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	20	30	50	0	0	0	100
基礎的能力	10	12	30	0	0	0	52
専門的能力	10	13	15	0	0	0	38
分野横断的能力	0	5	5	0	0	0	10